

一冊の本



教育文化学部長
熊田 亮介

新入生のみなさんのご入学を心から歓迎いたします。と同時に、秋田大学を構成する秋田大学人の一人として活躍されることを期待したいと思います。

みなさんを迎える文章としてはいささかふさわしくありませんが、以下は自己紹介をかねて認めたものです。

単行本であれ文庫本であれ、本を購入する時は一冊が普通である。同じ本を二冊以上買うことは滅多にあることではないが、それが度重なるようになったとしたら、老化の始まりと思わざるを得まい。もっとも、単行本が文庫本化される場合、解説が付されるのが普通である。その解説が優れたものであれば、解説文目当てに二冊目を購入することがある。古本屋を自称している私の書棚の中に、家族の者が同一書名の複数冊の本があるよと指摘してきた場合、そのように反論するようにしている。

もちろん、同一書名の単行本（文庫本）を二冊以上購入するということが無いわけではない。たとえば岡村道雄著『縄文の生活誌』（講談社）がその一例であるが、これはいわゆる旧石器捏造事件によって改訂版が出されたためである。もう一つは椎名慎太郎著『遺跡保存を考える』（岩波新書）である。それほど版を重ねているわけではないが、毎年、授業のレポート作成用テキストとして学生諸君に講読してもらうようにいうと、決まって品切れとか残部僅少という通知を受ける。しようがないので、ある年に、版元の在庫分を数十冊購入して、必要な場合に学生諸君に貸し出すことにした。

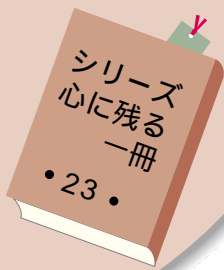
もっとも、同一書名の本を複数冊持っていて、その理由を十分に説明できないものも無いわけではないが・・・。

私の書棚の中には、そういったものとは異なり、意識的に複数冊を置いているものもある。大岡昇平著『レイテ戦記』がそれである。日本軍80,000人、アメリカ軍4,000人という甚大な犠牲者を出し、太平洋戦争中最も苛酷な戦場となったレイテ島の戦闘についての優れた戦記・戦争文学であり、高い評価を受けている作品である。もともとは1967年1月から69年7月まで月刊誌「中央公論」に連載されたもので、現在では中公文庫に三冊本として組み込まれている。書棚にはその「中央公論」をはじめ、1971年に刊行された単行本（中央公論社）、72年の三冊本の普及版（同）、74年の大岡昇平全集第8巻などがそれぞれ複数冊並んでいる。

どちらかという乱読に近い読書歴の私が、自分の専門分野とは全く異なるこの一冊にこだわるのは、膨大な資料の収集・分析という作業に基づいて、正確な事実を細大漏らさず集積し、また丹念な改訂作業を行うという著者の姿勢に圧倒されたからである。最終章の「エピローグ」が優れたフィリピン現代史になっていることも、魅力の一つである。一方で、同じ単行本を複数冊置いている理由は、名も知らぬ本の元所有者たちがペンや鉛筆で記した書き込みの存在である。レイテ戦の経験者かどうかは不明であるが、その書き込みからはさまざまな思いが伝わってくる。私がこの一冊、さらに古本にこだわるの背景にはそんなことがある。

このところ、授業の中でこのことについて話す機会もある。漂い始めた古本臭に辟易の声をあげる家族には、時々消臭剤を振りかけながら、古本も捨てたものではないと独り言ちている。

（くまた りょうすけ 教育文化学部教授）



『物語中国の歴史』

寺田隆信著
中央公論社 1997年



医学部保健学科長
吉崎 克明

一度読んだ本をしばらくおいてまた読み返すことがある。前は通り一遍に読んだ本ももう一度読み返すと、年とともに読後感、ものの見方や興味の視点が変わることもあって、大変面白い。先日、本を片づけていたところ、宮崎市定著「科挙」、寺田隆信著「物語中国の歴史」、堀敏一著「中国通史」が出てきた。3冊とも東洋史、中国史の研究者によって、私のような素人にも非常に分かりやすく著述されている大衆的な本である。

かの有名な「三国志」を若い頃に読んだことがある。その頃はただ単に歴史小説的な楽しみ方ではなかったかと思う。しかし、「三国志」に端を発して時が経つにつれて、中原を中心とした南北の戦い、東西の戦いの歴史である中国そのものの歴史には何か魅力を感じるようになった。そのような意味で、「三国志」が上述の本を読むきっかけとなったといつてよい。

今回、たまたま手にした「物語中国の歴史」を読み返し始めた。その中で、古代から中代にかけての変遷時期における国の興亡と文化の解説は分かりやすいし面白くもあり、さらにもっと知りたいという意欲をかき立ててくれる。その一部を紹介する。

古代国家が春秋時代、戦国時代を経て最終的に統一古代国家として始皇帝によって秦が誕生するまでの過程、さらにその後間もなく劉邦の出現によって前漢が、紀元後間もなく劉秀の後漢の時代を迎える。その後漢の時代に宦官と外戚による抗争、反乱による政治の乱れから、やがて、「三国志」の主人公たちの活躍の場となる時代を迎えたというわけである。蜀漢の劉備、魏の曹操、呉の孫権の人物像、そのころの時代背景、文化に非常に興味がある。

学問の方向性や主義・思想が為政者によって決められてしまう事実は、多くの歴史解説書が教えてくれる。戦国時代の主流は儒教主義（はっきりと言い切れることは難しいが）であり、秦の始皇帝による儒教主義の徹底した排除があれば、前漢時代には再び儒教主義に戻ったという。その建国者にそれまで影響を与えた人たちの考え、自らの経験や欲望、さらに時代の流れの混沌とした中からにじみ出した結果が為政に現れたにすぎない。しかし、文化は土着の人たちによって築き上げられ連綿と続き変遷してきた中に、時には外来人たちの異文化が混じり合って変わっていくものである。その意味で、激動の時に新しい文化が生まれてきたようである。「三国志」に悪役として登場する曹操は武人であるが、文化・学問を大切にしたり人でもあり、政治家としても一級の人であつたらしい。曹操は、魏国の建国における第一の参謀であった荀彧と共に30数年を軍人として殺伐とした時を過ごす中で、手から書を離さなかった好学の

人でもあった。特に、文学においては建安文学の祖として、叙詩の先駆者で、五言詩の基礎を作るなど、詩の歴史の中で唐時代に匹敵するほどのものと評されている。必ずしも歴史小説のごとく殺戮のみを繰り返した悪人というわけではなかったらしい。

後漢滅亡後の三国の中では魏王朝がもっとも長命な国で、蜀漢と呉を次々に併合して西晋と変わる。やがて北方民族の侵攻とともに五胡十六国時代（南北朝）へと突入し、隋の統一となるまで政治の混乱と分裂、戦争、殺戮の繰り返しの350年であった。分裂して興った国の支配者たちは武力こそ唯一の価値あるものとしていたにもかかわらず、興って滅亡し、興っては滅亡していった。しかし、そのような環境の下においても文化は途切れることなく連綿と引き継がれ、魏晋国の人々、特に貴族たちは生気満ちあふれ、賭博や囲碁も盛んであつたらしい。また、「竹林の七賢人」に代表されるような清流派、太学生や在野の士人らの清議による批判や、政治に反発する集団による反乱が繰り返され、思想的にも儒教が主流であったにしても道教や仏教も受け入れられているなど、激動の中にも自由の時であった。自由な発想ができる時代であつたからこそ、人々のエネルギーの爆発があり、すばらしい文化（六朝文化）が誕生したという歴史家の評を多くの後人が認めているところである。当時の士人の基本的教養は琴棋書画であつて、後の士人の教養の骨格を形成したとある。

時とともに変遷する環境に合わせて社会構造が変革を遂げていく過程は自然である。しかし、変革後の社会の安定の如何は、現状を十分に理解し先見能力を屈指して変革を押し進めていく指導者と協力者の力量に依存するといえる。

寺田隆信著「物語中国の歴史」を今回再読して、今社会構造の変革に直面している日本の時流には中国の歴史の流れの中に似たものを感じている。現状の日本と今後の日本を考える上で中国史や西洋史と照らし合わせてみるのも理解しやすいかもしれない。

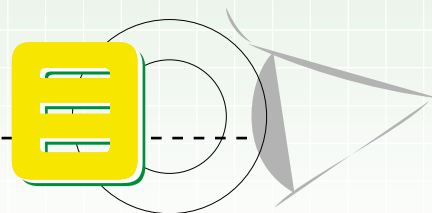
最後に、焦点の定まらないまま徒然に述べさせて、頂いた本稿の中に歴史的な間違いがあつた場合には、中国史、東洋史には全くの門外漢で中国の歴史をお話できる筋力ではない私のこととお許しを頂き、また間違いをご指摘頂ければ幸いです。

（よしざき かつあき 医学部保健学科教授）

この図書は本館 2F 新書版コーナー

081-C64-1353 にあります

図書館ボランティアの



医学部分館ボランティア 岡田 弘子

ボランティアを始めて、まもなく1年になるう
としています。

ボランティア自体初めてで、図書館の仕事につ
いても全く経験がありませんでしたので、何かお
役に立つことができるのだろうかという不安の方
が多かったと思います。

現在、おもに図書の整理をしています。来館者
の皆さんが熱心に学習している姿を横に見ながら
の作業ですので、なるべく音をたてないように、
また速やかに元の場所へ本を戻すように心がけて
はいるのですが、場所がわからずにあっちへ行っ
たり、こっちへ来たりとウロウロしています。

私のしている図書の整理は、きりがなく目に見
えない作業で（力仕事のところもあり）、やりが

いがなく楽しくないとボランティアも続かないの
では？と心配して下さる方もいます。でも、来館
者の皆さんの真摯な姿を見て、『頑張っているん
だなあ。うちの子たちにも見せたいものだ』と感
じつつ、自分も頑張らなくては、と元気になれる
ような気がします。家事や雑事から離れて私だけ
の『時間』という気持ちで図書館に来ていました
ので、続けられてきたかなと思っています。

この度の執筆にあたり、この1年を振り返る機
会をいただき、そして続けてこれたことを認めて
いただいたようでうれしく思っています。ありが
とうございます。これからも、微力ではありますが、
事情が許す限り、細くても長く続けていけた
らと思っています。

附属図書館ボランティア 吉田 弘子

昨年4月から図書館ボランティアをしている吉
田です。

新聞の広告で、大学図書館がボランティアを募
集していることを知り応募しました。応募理由は、
もっと専門的な図書を探してみたいという単純な
ものでした。

仕事の内容は図書整備・配架等ですが、始めて
みますと、今まで図書館を利用していたにも関わ
らず、本の配列・整理がどのようになっていたか

知りませんでした。

職員の方に一から教わりながら始めましたが、
当初は思うように捗りませんでした。

最近やっと利用者の探している資料を見つけ
やすいように整備できるようになったと思います。

こうして、図書館のボランティアを始めて、図
書館の仕事の大変さや奥の深さを痛感しておりま
す。いくらかでも役に立てれば良いと思ってお
ります。

新入生のための利用案内

	本館	医学部分館
開館時間	<ul style="list-style-type: none"> ・月～金 8:30～20:00 / 土・日・休日 9:00～17:00 ただし春・夏・冬季休業期間は ・月～金 8:30～17:00 / 土・日・休日 休館 	
休館日	<ul style="list-style-type: none"> ・本学創立記念日(6/1) / 年末年始(12/28～1/4) ・臨時休館などの場合はその都度お知らせいたします。 	
開館カレンダー	館内掲示版(INFORMATION)、図書館だより、ミニカレンダー、図書館ホームページなどでご覧ください。	
館外貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館資料を借りるときはカウンターで学生証と一緒に提出してください。 	
館外貸出	学部学生 5冊まで(図書・雑誌) 院生・研究生 5冊まで(同上)	学部学生 2冊まで(図書ののみ) 院生・研究生 5冊まで(図書・製本雑誌)
貸出期間	2週間(14日)以内	10日以内
長期貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間中は貸出期間や貸出冊数に変更があります(その都度案内します) 	
返却	<ul style="list-style-type: none"> ・返却期限日までにカウンターへ返却ください。 ・閉館時は玄関の返却用ポスト(ブックポスト)に投函してください。 ・返却日より遅れると遅れた日数分貸出停止になります。 	
予約	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人が借用中の図書の予約が出来ます(OPAC--蔵書検索システム--で読みたい図書が貸出中と分かった場合、予約しておく返却後優先して利用ができます) ・学生証を持参しカウンターで手続きしてください。 	
更新	<ul style="list-style-type: none"> ・借りていた図書を継続利用したい場合は返却期限内に学生証と該当図書を持参しカウンターで更新手続きを行ってください。(予約がある場合は不可) 	
視聴覚資料	<ul style="list-style-type: none"> ・CD, LD, Video, DVDなどは館内(AVブースや視聴覚室)で利用ができます(貸出は不可です) ・学生証と一緒にカウンターで手続きしてください。 	
国際交流コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・留学関係資料や外国人留学生向けの日本語学習用資料、雑誌、新聞があります。 ・文書作成用パソコンもあります。 	
図書ラベル	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の背表紙には左記図のように「図書ラベル」が貼ってあります。 ・3段に分かれていて1段目は分類番号、2段目は著者記号、3段目は巻冊番号が記入されます。(これらを総称して請求記号といいます) ・分類番号：図書の内容を記号化したもので210は日本の歴史を意味します。(この番号は日本十進分類法NDCという規則に沿って与えられています) ・分館では医学関係図書は米国国立医学図書館(NLM)分類法で番号が与えられています。(QZ100, WS100, WY150など) ・図書は「図書ラベル」の請求記号順に配架されています。 	
資料を探す	<ul style="list-style-type: none"> ・本館・分館のホームページに図書館での資料・情報・文献等の探し方が解説されています。(最新のお知らせもここで入手してください) 	
利用案内全般	本館HP: http://www.lib.akita-u.ac.jp/ 分館HP: http://libra.med.akita-u.ac.jp/	

館内案内図

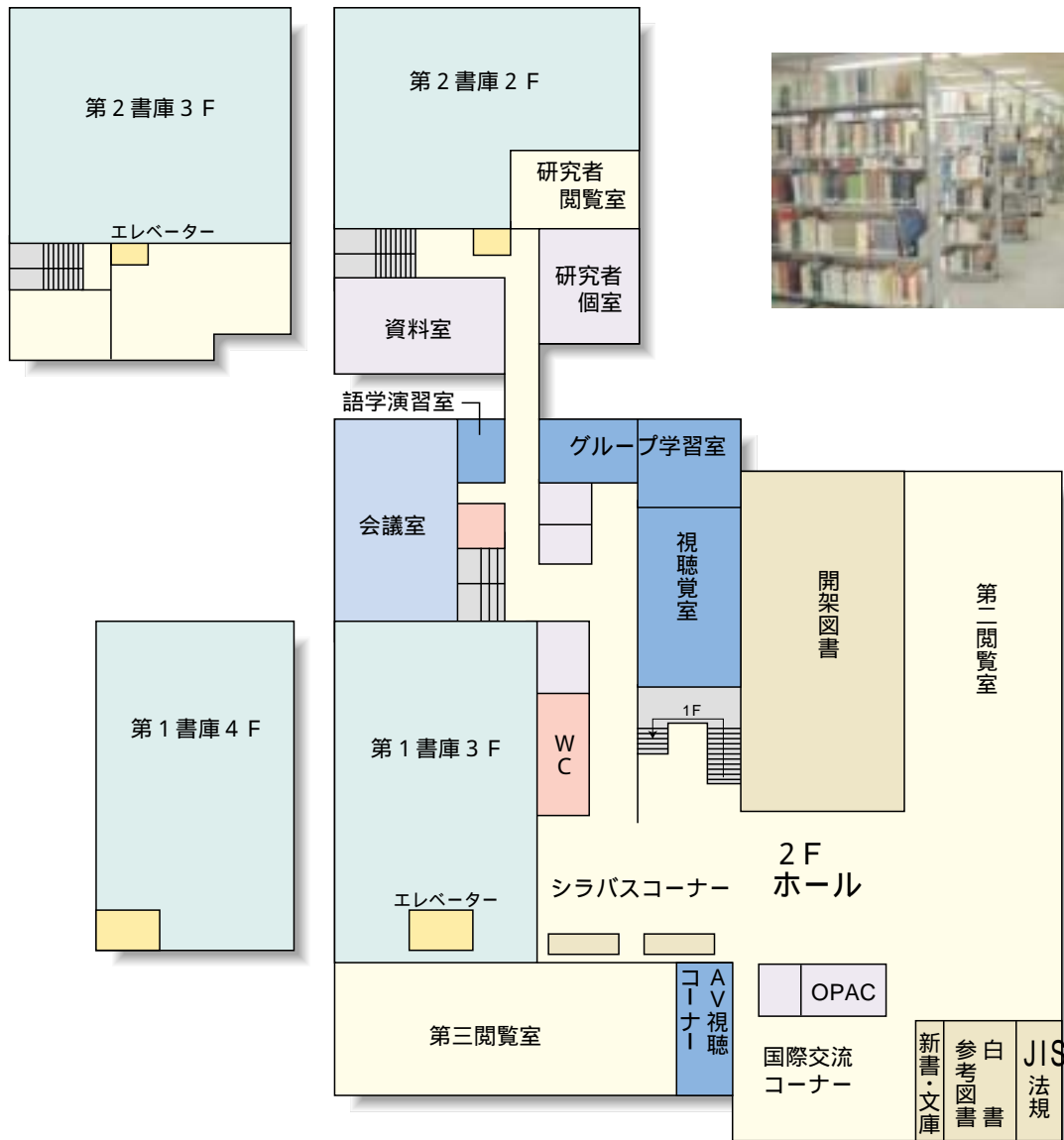
本館1F



開館カレンダー、呼び出し、注意事項の確認が
出来ます
閉館時の返却はここに投函してください
無断持出の場合警報が鳴ります
貸出、返却、各種手続きはここで行ってください
雑誌、新聞があります(談話、飲食可)
新しく受入れた図書が展示されています
秋田県関連の図書などが並べられています
Video, LD, CD, DVDなどのコーナーです
Internetや蔵書検索(OPAC)、文献検索ができます
出版目録、文献目録(書誌)、索引類があります

利用者用の机があります(約100席)
人文系、情報学、全集類の図書があります
上記分野の参考書(事典、辞書類)があります
各種地図、百科事典、年鑑類があります
図書館資料のコピーが出来ます(注意厳守)
喫煙はここでのみ可
1988年以前の受入図書目録
修士論文、科研費報告書などがあります
和雑誌バックナンバー(A-K)
欧文雑誌(1969以前のバックナンバー)

本館2F



今年度のシラバスと掲載図書があります

蔵書検索と文書作成用PCがあります

利用者用の机があります(約120席)

社会科学、自然科学、工学系の図書があります

上記分野の参考書や白書、新書、文庫など

留学(生)用資料やPC, AVブースがあります

利用者用の机があります(63席)

視聴覚資料観賞用ブース(1~2人用:8席)

視聴覚資料を多数(3人以上)で観賞する場合

多人数(5~10名)で学習の場合に利用できます

教官、院生用の部屋です(約10席 / 個室3)

和文雑誌(バックナンバー) L-Z / 国勢調査書類

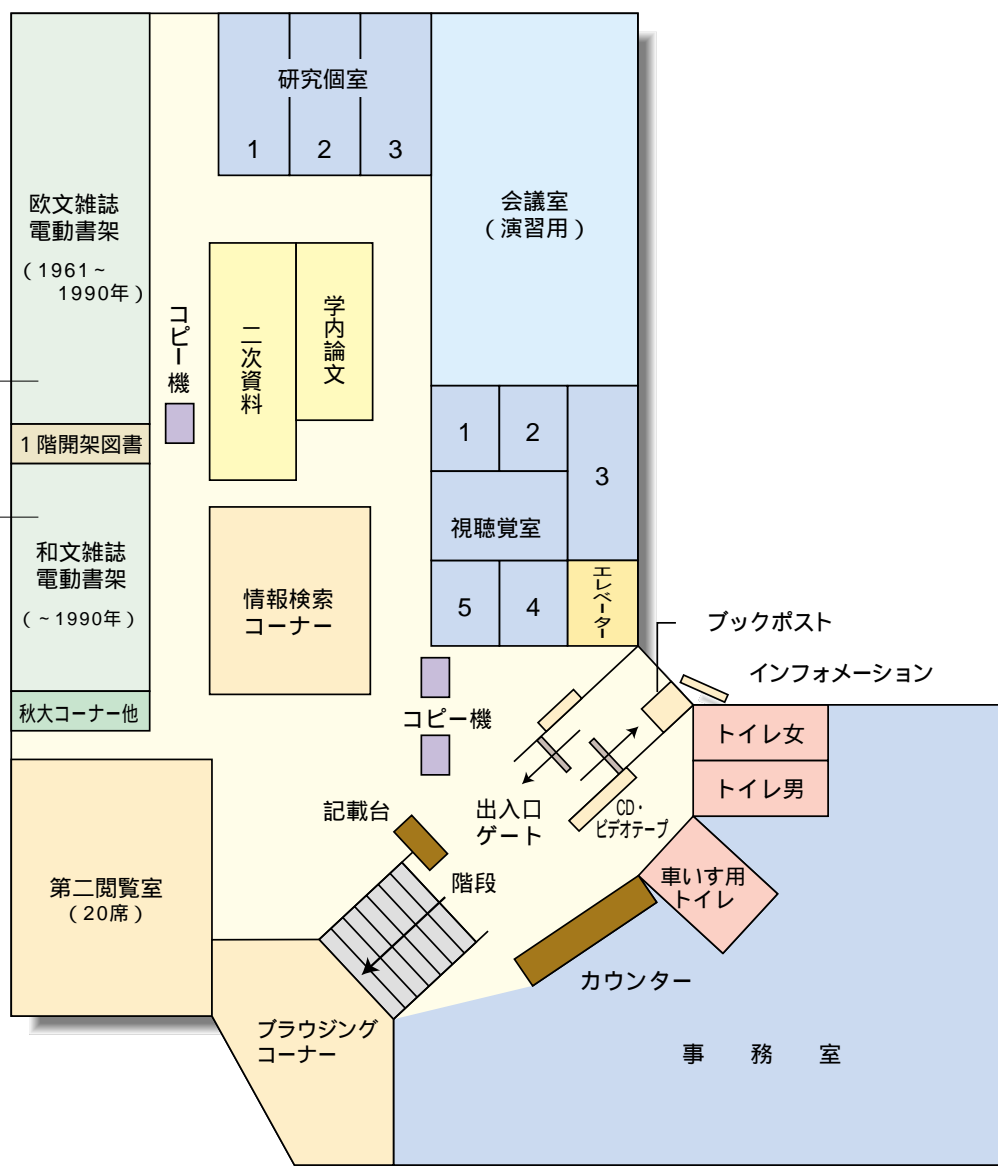
新聞縮刷版、官報、大型本、参考図書など

欧文雑誌(1970以降と新刊)があります

開架図書以外の図書があります

医学部分館1F

1990年以前の雑誌が欧文・和文別に誌名のアルファベット順に並んでいます。



分館からのお知らせがあります
 閉館時の返却はこちらへ
 無断で持ち出した場合、警報が鳴ります
 貸出、返却、各種申込はこちらへ
 学外者はここで利用簿に記載ください。学外文献
 申込書の記載もこちらでどうぞ
 新聞・雑誌が読めます(飲食可)
 OPAC(蔵書検索システム)・文献検索・インター
 ネットができます

図書館所蔵のCD・ビデオの視聴ができます
 12名位まで利用できます
 院生・教職員の研究用個室です
 医中誌・Index Medicus等の二次資料があります
 学内の博士学位論文・科研費報告書があります
 学生用(私費)のコピー機が、コイン式とカード
 式の2台あります

医学部分館2F

雑誌は、欧文・和文別に誌名のアルファベット順に並んでいます。1990年以前の年代のものは1Fにあります。最新年度の購入雑誌は新着雑誌コーナーにあります。



OPAC (蔵書検索システム)で「開架」となっている図書は、ここに 있습니다。和洋別です。

呼び出し・学外文献の到着・各種お知らせを掲示します	各種事典・辞書・年鑑・地図等があります (貸出不可)
新しく受入れた図書があります	最新年度の購入雑誌があります
今年度のシラバスに掲載された図書があります (貸出不可)	技術部で購入した図書があります
OPAC (蔵書検索システム) 使用のためのパソコンです	厚生省・厚生労働省の報告書があります

蔵書検索システム画面説明



1. 検索画面は2通りあります。(切替えてご利用ください)

【簡易検索画面】 秋田大学蔵書検索システム

詳細検索 English Help 戻る

(切替え) → 全資料 未所蔵を含む 表示件数 20 所蔵を表示しない

(図書or雑誌選択可)

探すものに関する情報(語句) → キーワード インターネット&セキュリティ

図書・雑誌タイトル関連
図書著者関連
図書主題(テーマ)

所在 全て

検索 クリア

複数語句のAND検索は使用と絞込み検索がありません(解説参照)

【詳細検索画面】 : 探すものの情報がある程度明確なとき
: 各項目の組み合わせで探すとき

◎雑誌掲載論文情報(論題・論文著者名)での検索はできません。(掲載雑誌名で探してください) ⇒ 詳細はHP解説参照

簡易検索 English Help 戻る

(切替え) → (和書+洋書) 全資料 未所蔵を含む 表示件数 20 所蔵を表示しない

検索 クリア

書名	インターネット	AND
著者名	三輪	AND
出版者	IDG	
刊年	2002 -	所在 全て
分類	全て	資料区分
言語	全て	出版国
請求記号		ISBN/ISSN

2. 検索結果の表示形式は図書、雑誌で異なります。(図書雑誌等の所在場所は図書館HPの館内案内図参照)

【所蔵情報】 (図書)

所在	請求記号	巻冊次	図書番号	ISBN	利用状況	予約
本館開架2F	547.483 M68 v.1	上	130300090	4872804759	保管(利用貸出可)	
本館開架2F	547.483 M68 v.2	下	130300091	4872804767	貸出 ← (20040412)	

何処にあるか 図書ラベル(配架位置) バーコード NO. 現在の状況 貸出中の図書は予約できます(カウンターへ) 禁帯: 館内利用のみ可

【書誌情報】 書誌詳細情報

[書名・責任表示] インターネット・セキュリティ教科書 / 三輪信雄, 白橋明弘共編
 [著者標目] 三輪, 信雄(1961-)
 [著者標目] 白橋, 明弘
 [著者標目] 石田, 晴久(1936-)
 [出版・頒布事項] 東京: IDGジャパン, 2002.10-2002.11
 [形態事項] 2冊; 26cm
 [シリーズ] IDG情報通信シリーズ

【所蔵情報】 (雑誌)

所在	巻号次	年次	請求記号
医学部分館	20-26,27(1-7,9-12),28-33,34(1-4)*	1990-2004	
本館	20-33,34(1-4)*	1990-2004	
工・素材研究施設	28-31	1998-2001	

所蔵巻号情報 巻号対応年次 継続中

【書誌情報】 書誌詳細情報

[書名・責任表示] 日経サイエンス: Scientific American 日本版 / 日経サイエンス社
 [著者標目] 日経サイエンス社
 [出版・頒布事項] 東京: 日経サイエンス社, 1990-
 [形態事項] 冊; 28cm
 [異なりアクセス書名] VT:Scientific American, 日本版||Scientific American, ニホンバン
 [巻次年月次] 20巻10号(1990.10)- = 229号(1990.10)-

トピックス TOPICS

1. 図書修理講習会

1月29日、国立公文書館から講師を招いて図書修理の講習会を開催しました。その後も復習と実技を兼ねて修理作業をしています。



2. 研究費での図書購入申請が Web 上でもできるようになります (2004年 4月より)

図書館HPに図書購入申請の項目が設けられ、研究室にいながら申請が可能となります。併せて図書の処理状況も確認できます。

お申込の際は、注意事項をよくお読みになってから行って下さい。

なお、「NEWS LETTER」でも詳しく紹介されますので併せてご覧下さい。

本学教官等著作寄贈図書

(平成16年1月～平成16年2月受入れ)

本学教官が著し、寄贈したものです。ありがとうございます。

Yoshinori Watanabe 共編 「Washback in language testing」

Lawrence Erlbaum Associates 2004

小笠原嵩 著 「秋田の貴重猛禽類」

秋田魁新報社 2004

図書館では本学教官の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を、積極的に収集し、利用に供しています。出版の折には御寄贈くださいますようお願いいたします。

訂正とお詫び

前回57号に誤りがありました。下記のように訂正してお詫びいたします。大変ご迷惑をおかけしました。

誤： 大 嶋 勝 司 正： 九 嶋 勝 司

平成16年度秋田大学附属図書館開館カレンダー

本館

4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

date 平日 8:30~20:00 date 土曜・日曜・休日 9:00~17:00 date 長期休業期間 8:30~17:00 date 休館

分館

4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

編集後記

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい一歩を踏み出したあなたたち。学習の場としてはもちろんのこと、心休まる空間としても図書館を利用していただけたいと思います。皆さんのご来館をお待ちしております。

図書館だより 第58号

2004年4月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会
 発行者 秋田大学附属図書館
 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
 TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052
 FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252

E-mail : 本館 riyo@lib.akita-u.ac.jp
 分館 medlib@libra.med.akita-u.ac.jp